

ベーデンパウエルの最後の手紙

スカウト諸君

「ピーターパン」の劇を見たことのある人なら、海賊の首領が死ぬ時には最後の演説をするひまはないに違いないと思って、あらかじめその演説するのを、覚えているだろう。

私もそれと同じで、今すぐ死ぬわけではないが、その日は近いと思うので、君たちにわかれの言葉をおくりたい。これは、君たちへの私の最後の言葉になるのだから、よくかみしめて、読んでくれたまえ。

私は、非常に幸福な人生を送った。それだから、君たち一人一人にも、同じような幸福な人生を、歩んでもらいたいと願っている。

神は、私たちを、幸福に暮らし楽しむようにと、このすばらしい世界に送ってくださったのだと、私は信じている。

金持ちになっても、社会的に成功しても、わがままができて、それによって幸福にはなれない。

幸福への第一歩は、少年のうちに、健康で強い体を作っておくことである。

そうしておけば、大人になった時、世の中の役に立つ人になって、人生を楽しむことができる。

自然研究をすると、神が君たちのために、この世界を、美しいものやすばらしいものに満ち満ちた、楽しいところをおつくりになったことがよくわかる。

現在今与えられているものに満足し、それをできるだけ生かしたまえ。ものごとを悲観的にみないで、なにごとにも希望を持ってあたりたまえ。

しかし幸福を得るほんとうの道は、ほかの人にも幸福を分け与えることにある。この世の中を、君が受け継いだ時より、少しでもよくするよう努力し、後の人に残すことができたなら、死ぬ時が来ても、とにかく自分は一生を無駄にすごさず、最善をつくしたのだという満足感をもって、幸福に死ぬことができる。

幸福に生き、幸福に死ぬために、この考えにしたがって、「そなえよつねに」を忘れず、大人になっても、いつもスカウトのちかいとおきてを堅く守りたまえ。

神よ、それをしようとする君たちを、お守りください。

君たちの友

ベーデンパウエル オブ・ギルウェル

